



列車に「お茶のある日常」

望月さん(静岡文化芸術大)デザイン JA遠州中央と連携

東海道線車内ポスター

静岡文化芸術大大学院デザイン専攻の望月麻衣さん(23)がJA遠州中央(磐田市)と連携して手掛けた茶のPRポスターが2日から16日まで、JR東海道本線熱海―豊橋間を走る列車内に掲示される。お茶が飲みたくなる多様なシチュエーションを描いた24種類のデザインが車内を「ジャック」する。期間中は「世界お茶まつり」(7〜10日、静岡市)もあり、「乗降客に茶のある日常を身近に感じてもらえたら」と期待する。

はじける世代を深く
DeePop
ディーポップ

「移動中の電車内をほっと安らげる空間に」と車内広告をテーマにした修士研究の一環。6年間、居住する静岡市から大学がある浜松市まで1時間20分ほどかけて電車通学した望月さんならではの発想。昨年受講したふじのくに地域・大学コンソーシアムの「ふじのくに学」の茶の講義も生かした。

中づりやドア上部の広告工

「移動中の電車内をほっと安らげる空間に」と車内広告をテーマにした修士研究の一環。6年間、居住する静岡市から大学がある浜松市まで1時間20分ほどかけて電車通学した望月さんならではの発想。昨年受講したふじのくに地域・大学コンソーシアムの「ふじのくに学」の茶の講義も生かした。

関係者を通じて紹介を受けたJA遠州中央と相談を重ねてデザインを固めた。同JA側は学生とのコラボや電車でのPRは初めて。担当者は「従来のポスターは製品や茶畑そのものを表したものが多かった。今回は消費者に茶を飲むシーンを提案する新しいスタイル」と評価する。

都内の広告制作会社に就職予定の望月さん。「丁寧な暮らしを求める20〜30代の間でお茶は一つのブーム。これからも魅力を伝えて生まれ育った静岡を元気にしたい」と話す。(磐田支局・山本雅子)

PRポスターを掲出した電車走行を前に、JA遠州中央職員と打ち合わせを行う望月麻衣さん

11月17日、磐田市見付